

【発表抄録】

2018年9月7日高知ちばさんセンター第1研修室 開催
中山間地域等における地域包括ケアシステム構築に関するフォーラム

事例発表②「地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みについての活動報告」

愛媛県西予市福祉事務所長寿介護課 保健師 井上 理恵

本フォーラムにおいて、地域包括ケアシステム構築にあたって、中山間地域としての特徴的な課題を抱える当市の取り組みの報告を行った。

西予市は、愛媛県の西南部に位置し、人口38,506人、高齢化率は愛媛県の市で第1位の41.9%（平成30年4月現在）愛媛県第2位の面積514.8km²、海拔0m～1400mという地形をもちその中で行政区が345という状況である。概ね30分以内に必要なサービスが提供されるという地域包括ケアシステムを考えるにあたって、「人口の高齢化と人口減少」「専門職の不足」「連携するためのアクセスの悪さ」をどうクリアしていくか。住民パワーをどう引き出すかという視点で取り組んでいる。

介護予防と健康づくりの連携で自助・互助をすすめよう 図①

介護保険創設時の目的である、「自立支援」の考え方を再度市民に周知する必要性を感じていたところであるが、「介護を使わないうち」「健康なうち」から制度について市民と一緒に考えていく機会を増やすことを視점에事業を開始した。

住民への普及啓発活動は、健康教育や生涯学習等色々な機会であるが、横の連携が今まで十分にとれていなかったため、まず健康づくり、介護、包括が共同で同じ教育媒体を作成し、使用することとした。また、教室を開催する側の意識も「おもてなし」教室から「参加者自身が役割をもつ」教室へと変えていっている。

地域の宝物をさがそう・活かそう 図②

市民と話し合いを持つにつれて、少子高齢化の進むわが町ではあるが、支えあいの力はいまだ強く、行政が知らない集まりや互助がたくさんあることを知った。その地域の宝物（人・場所）を見える化していく必要性を感じ、資源マップを作製、「こんなことやったら手伝える」という気持ちを活かす人をつくる場として「介護予防サポーター養成講座」「いきいきボランティアポイント制度」を開始した。

ICTクラウドシステムを利用して多職種連携 図③

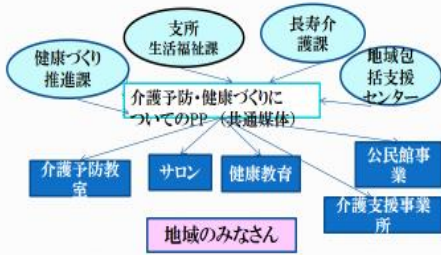
多職種連携において、専門職同士の顔の見える関係形成は、連携のスタートであると考えられる。平成25年度末からモデル事業としてショートステイ空き情報等を情報共有する場としてクラウドの利用を開始した。現在では、市内の保健、福祉、社会教育、警察、消防等の多職種多機関で図③のように参加が進み、各事業所からの情報がリアルタイムで共有でき、顔の見える関係が進んでいる。また、前述の「地域の宝物」をICTで見える化していく予定である。

今後の課題

今までの取り組みと新しい事業「認知症施策」「医療介護連携」「生活支援体制整備」を地域ケア会議で包括的に考えながら市の取り組みを縦横の連携を重視して地域とともに推進していく。

介護予防と健康づくりの連携で自動・互助をすすめよう 図①

○地域みなさんに一緒に考えてもらう資料を提供しよう。
 ○できるだけ介護予防・健康づくり同じ媒体を使って伝えたいことを統一しよう。



地域の宝物をさがそう・活かそう図②

「私〇〇やったら手伝える！」 「だれか〇〇やってもらえんかな？」

ニーズと資源のマッチング



ICTクラウドを利用して多職種連携 図③

